

平成 27 年度日本規格協会標準化貢献賞

[標準化貢献賞]

氏 名 ・ 所 属 ・ 役 職	主 な 功 績
安倍 徹 一般社団法人 日本能率協会 顧問	<p>2008年4月よりスキーム委員として、また2013年9月以降は運営委員として長年に渡り、JRCAのマネジメントシステム審査員評価登録事業の運営に協力し功績を残された。また、両委員会に精通する立場として、2014年における委員会の発展的統合に協力いただいた。</p> <p>さらに、2014年の「MS管理技術者」資格制度の立上げにあたっては、マネジメントシステム審査登録制度の立上げ段階から各種委員として制度に携わってきた経験を基に、JRCA講演会での講演及び機関誌への掲載記事等を通じて制度の普及に貢献された。</p>
岩田 立男 静岡大学 グローバル企画推進室 特任教授 NPO法人 接着剤・接着評価技術研究会 会長	<p>接着技術の専門家として26年以上にわたりJIS及びISOの開発に貢献し、特に、ISO/TC61/SC11/WG5にて、トップスタンダード制度を活用した提案のプロジェクトリーダーをつとめ、ISO 19095シリーズ（樹脂—金属接合体の特性評価方法国際標準化）として4件の規格を発行させた。また、JIS使い方シリーズ“接着と接着剤選択のポイント”改訂2版（2008）の編集委員会メンバーとして、執筆・編集に貢献いただいた。</p> <p>さらに、鉛フリーはんだの代替技術であるISO 16525シリーズ（接着剤—導電性接着剤の試験方法）9件、ISO 19212（接着剤—せん断接着強さの温度依存性の求め方）、ISO 26842-シリーズ（接着剤—屋内木製品用接着剤の評価及び選択のための試験方法）2件の国際規格のプロジェクトリーダーも務めたほか、静岡大学で国際標準化について講義するなど、標準化の普及に多方面から取り組んでいる。</p>
大橋 靖記 大橋技術士事務所	<p>1997年より18年の長きに亘りマネジメントシステム（MS）認証審査員として多くの審査を担当し、“お客様に価値を認めていただける審査”を強く印象づけ、当協会ブランドの定着に貢献した。また、MS認証に関する確かな審査技術や見識をもとにFSMS認証事業の立上げに寄与すると共に、FSMS判定委員長としても信頼ある認証の決定を行ってきた。更に、審査技術の検討委員として多くの課題に取り組み、審査技術の向上や技術の伝承を通じて審査員の育成にも貢献いただいた。</p>

	<p>また、MS審査員評価登録事業において、2008年7月より研修コース承認審査員として活動し制度の質向上に寄与された。</p>
<p>熊谷 伸一</p>	<p>永年にわたり日本規格協会が出版する ASME BPVC の日本語訳校閲を手掛け、ASME コードのシンボルスタンプ資格制度、品質保証・品質管理システムの確立、改善方策に対するエキスパートとして「ASME BPVC 日本語版」の品質維持、向上に大きく貢献いただいた。</p> <p>また、(株)IHI 在籍中には、ASME Code 利用マニュアルの編集委員長として多大な貢献をいただいた。</p>
<p>久利 孝一</p>	<p>永年に亘り、英訳 JIS の翻訳者、校正者として、専門分野のみならず、幅広い分野の翻訳、校正を手掛け、当協会が出版する英訳 JIS の品質の維持及び向上に大きく貢献いただいた。</p> <p>また、(株)東芝在籍中には、新版 QC 入門講座等当協会の出版物の執筆に携わったほか、月刊誌編集参与委員や「標準化と品質管理全国大会」の運営委員を務め、当協会の事業に多大な貢献をいただいた。</p>
<p>小池 昌義 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 環境 管理部門 客員研究員</p>	<p>日本が幹事国を引き受けている ISO/TC69/SC8(統計的方法の適用/新技術と製品開発のための統計的手法の応用)の国内委員会主査を務め、本分野の国内意見の集約及び提案に尽力するとともに、ISO/TC 69/SC 8/WG 3 コンビナとして我が国提案のロバストパラメータ設計を定義した ISO 16336:2014 の国際規格化に多大な貢献があった。</p> <p>また、JIS Z 8404 シリーズの JIS 原案作成委員会の委員長を務める等、JIS 開発に積極的に携わったほか、不確かさや品質工学に関連する当協会発行書籍の執筆を行い、本分野の普及に寄与した。</p>

<p>上月 宏司 株式会社 ケイ・シー・シー 代表取締役社長</p>	<p>JIS Z 9901 制定前から ISO 9000 に関する当協会事業に尽力いただき、出版事業においては「内部監査の手引き」「やさしいシリーズ ISO 9000 入門」の執筆、研修事業においては、長年 ISO 9000 セミナーの主要講師として講義、テキスト執筆や講師の育成など、多大な貢献をいただいた。</p> <p>また、審査登録事業においても 1995 年から審査員として、活躍され、審査員の教育なども積極的に協力をいただいた。</p>
<p>谷本 清 クォリティプログレス 代表</p>	<p>元 (株) 十川ゴム 工場長としての経験を活かし、永年にわたり関西・四国地区における品質管理や現場の管理・改善手法等の普及並びにそのレベル向上に多大な貢献をされた。近年では人材育成に関するセミナー「現場指導者のための正しい仕事の教え方コース」を開発し、全国の会場で講師を務めている。</p> <p>現在は、「通信講座による品質管理入門コース」において主任講師を務めると共に、主に企業向け研修において「品質管理」「改善活動」「ISO 9001」などの導入・指導を行っている。「標準化と品質管理地区大会」における基調講演等の実績もあり、研修事業の運営並びに標準化と品質管理に関する人材育成に大変寄与されている。</p>
<p>椿 修治 株式会社 ケイ・シー・シー シニアコンサルタント</p>	<p>企業での実務経験、コンサルとしての指導経験をもとに関東地区での「現場の管理と改善セミナー作業改善コースの講師を 10 年以上担当いただいております、長年培ってきた経験をもとに独自演習を盛り込みながら行う研修は、多数の参加者からの支持を得ています。また、当協会のセミナーや社内研修の有用性を顧客に説明をいただくなど、品質管理教育の普及に貢献をいただいた。</p>
<p>西川 久</p>	<p>1990 年から永年に亘り、英訳 JIS の翻訳者として、日本規格協会が出版する英訳 JIS の品質の維持及び向上に大きく貢献いただいた。</p> <p>主な英訳として、JIS K 6251 (加硫ゴム及び熱可塑性ゴム—引張特性の求め方、JIS K 6253 シリーズ (加硫ゴム及び熱可塑性ゴム—硬さの求め方)、JIS L 1902 (繊維製品の抗菌性試験方法及び抗菌効果)、JIS Z 8808 (排ガス中のダスト濃度の測定方法)、JIS Z 2801 (抗菌加工製品—抗菌性試験方法・抗菌効果) など、ニーズの高い JIS について主に化学分野を中心に、さらにそれ以外の幅広い分野につい</p>

	<p>ても、英訳翻訳に多大なご貢献をいただいている。</p>
<p>廣瀬 一夫 有限会社廣瀬マネジメントシステム研究所 代表取締役</p>	<p>2000年にMS認証審査員として委嘱され、現在に至るまで、QMS、ISMS、BCMSの複数のMS認証審査員として活躍されている。特にISMSについてはISMS審査技術検討会の主査として、大幅に改訂されたISO/IEC27001:2013の審査要領等を取りまとめ、同規格の円滑な認証移行対応に尽力された。また、2014年のBCMS認証事業の立ち上げにおいても審査技術検討会の主査を務め、BCMS判定委員長としても信頼ある認証の決定を行い、当協会の認証の信頼性確保に貢献いただいた。</p>
<p>細谷 僚一 インターネットマルチフィールド株式会社 相談役</p>	<p>2002年のISMS認証事業立ち上げ時より13年の長きに亘りISMS判定委員長を務め、日本のインターネット創成期を担った同氏の情報セキュリティに関する高い見識をもとに、信頼ある認証の決定を行って、当協会のISMS認証の信頼性確保及びその普及に尽力された。</p>
<p>穂積 弘之 株式会社ダイヤモンド・ヒューマンリソース 監査役</p>	<p>2006年4月より長年に渡り、マネジメントシステム審査員評価登録センター（JRCA）の評価委員としてマネジメントシステム審査員の資格評価業務に従事し功績を残された。</p> <p>また、審査員の資格評価業務を第三者の立場で公平・中立に行い、審査員の評価登録事業に客観性及び公平性を付与することに貢献いただいた。</p> <p>さらに、2006年から2009年にかけて新しく導入された審査員の「CPD（専門能力開発）」評価方式においては、審査登録業界にその考え方の普及・定着に果たした役割は大きく、マネジメントシステム審査員の力量向上、引いてはマネジメントシステム審査登録事業の質の向上に寄与された。</p>

<p>光藤 義郎 文化学園大学 特任教授</p>	<p>「品質管理検定事業」立ち上げ時から運営委員として参画し、同事業運営に関する積極的な提案、外部に対する品質管理検定の普及活動など今日の発展に寄与した。また、同事業のレベル表改定作業、4級テキスト改定作業等においても積極的に対応し、品質管理検定事業に多大な貢献をされている。</p> <p>その他の事業においても、「標準化と品質管理全国大会」実行委員会委員、品質月間委員会副委員長、「標準化と品質管理」誌アドバイザーを務め、「品質機能展開の実際」を共同執筆するなど、当協会の事業に多大な貢献をいただいている。</p>
<p>安井 邦夫 元NTT北海道 研修事業部 次長</p>	<p>企業での実務経験・指導経験をもとに北海道地区での「品質管理セミナー 入門コース」・「JIS 品質管理責任者セミナー 専修科コース」の講師を20年以上担当いただいた。</p> <p>各受講生のレベルに応じた適切な講義を通じ、北海道地区のセミナーの質向上と普及に多大な貢献をいただいた。</p>
<p>渡邊 由子 株式会社ビジネス教育研究所 代表取締役</p>	<p>当協会でも最初のMS認証の女性主任審査員であり、2000年より多くの審査を担当し女性活躍のモデルとなっている。特にリスクが高く審査が難しい医療・福祉分野を積極的に担当し、病院や福祉施設からの信頼が厚く、再訪の要請も多い。また、当協会の医療審査技術検討会の主査を務め、審査技術の向上と後進の育成に尽力された。更に、翻訳サービス提供者認証事業の立ち上げに際しては、審査技術検討WGの主査として当協会が経験のない分野の審査要領のとりまとめに尽力し、事業立上げに貢献いただいた。また、MS審査員評価登録事業において、2009年12月より研修コース承認審査員として活動し制度の質向上に寄与された。</p>

[標準化奨励賞]

氏名・所属・役職	主な功績
<p>金丸 淳子 公益財団法人 共用品推進機構 業務部 調査研究課 課長</p>	<p>高齢者・障害者関連の JIS 開発を 12 年に亘り推し進め、多くの JIS 原案作成に携わった。また、当協会自ら作成した JIS を審議する規格委員会の委員を始め、高齢者・障害者の規格を審議する規格調整委員会の委員を 8 年に亘って務め、この分野の標準化の推進者として今後の活躍が期待される。</p>
<p>黒柳 要次 株式会社パデセア 代表取締役</p>	<p>1998年より17年の長きに亘りMS認証審査員として活躍し、また、EMS審査技術検討会に参加し、審査要領の開発、EnMSへの審査技術の展開などに大きく貢献された。</p> <p>更に、EnMS判定委員長としても信頼ある認証の決定を行い、当協会の認証の信頼性確保に貢献いただいている。また、当協会のISO14001:2015年改訂の審査技術検討会に欠くことのできないメンバーであり、登録組織・審査員に対する規格改訂説明資料作成および説明会の開催に大いに貢献された。更に、新人やリーダーの審査員研修講師として、質の高い審査員を多く育てることに尽力していただいている。</p>
<p>国府 保周 生き生き経営システムズ</p>	<p>ISO/TC176 国内対応委員会（ISO9001WG 対応委員）として ISO 9001 規格改訂の際には日本の意見を反映すべく積極的に議論に参加いただくとともに、JIS 化に向けた活動にも積極的に参加いただいている。出版事業においては、「ISO 生き生きシリーズ」として複数の書籍の執筆、ISO9001 に関係する書籍の執筆を行っていただいた。</p> <p>研修事業においては、ISO 9000 セミナーの講師としてはもちろん、テキストの開発・執筆を行うなど多大な貢献をしていただいている。</p> <p>今後も ISO 9001 関係の書籍の執筆、セミナー開発、テキスト執筆などさらなる活躍が期待される。</p>

<p>鈴木 篤 一般社団法人 日本照明工業会 担当部長</p>	<p>JLMA 技術委員会委員又は委員長として、照明用光源に関する JIS 制定をされた。また、日本工業標準調査部会電気技術専門委員会の委員として幅広い分野の JIS 制定に携わった。さらに当協会の公募を通じた JIS 制定、当協会主催の規格説明会などに中心的な役割を果たしている。</p> <p>照明業界の国内標準化の推進役として大いに貢献をされている。</p>
<p>仁科 辰夫 山形大学大学院 理工学研究科 物質化学工学専攻 教授</p>	<p>永年に亘り東北地区における品質管理の普及並びにそのレベル向上に多大なる貢献をいただいている。また、変わらぬ情熱と卓越した見識と指導力により、東北地区の当協会セミナー講師陣の中心的存在になっていただいている。品質管理と標準化セミナー東北教室では教務主任を務め、品質管理の理解向上のため講義内容や演習などの改善にも精力的に取り組んでいただいおり、さらなる活躍が期待される。</p>
<p>山田 秀 筑波大学 ビジネスサイエンス系 教授</p>	<p>ISO/TC176/SC2/WG24 の日本代表エキスパート及び品質マネジメントシステム規格国内委員会の副委員長として、ISO 9001 の改訂に大きく貢献された。本年 11 月公示予定の JIS Q 9001 の原案作成についても、WG の中核メンバーとして委員長と共に議論の中心を担い、円滑な審議にご尽力いただいた。</p> <p>また、当協会が主催する ISO 9001 関連の規格説明会では講師を務め、更に当会発行の QMS 関連書籍の執筆も行うなど、ISO 9000 及び 9001 の開発・普及・啓発の全ての面で多大な貢献をされている。</p>

[標準化貢献特別賞]

団体・企業名	主な功績
一般財団法人 建材試験センター	<p>建築材料を対象とした約 110 件の JIS を所管する原案作成団体であり、毎年、継続的に当協会の JIS 公募制度を利用して JIS の制定改正活動を推進している。また、規格改正に伴う説明会の実施にも積極的であり、規格の普及に大きく貢献している。さらに、コンクリート骨材試験に関する DVD をはじめとする当協会の新商品開発や規格調整分科会委員の派遣、そしてセミナー講師を派遣するなど、当協会の事業への協力・貢献も大きい。</p> <p>今後ますますの協力関係の維持・拡大による貢献が期待される。</p>
株式会社 スタンダード・ワークス	<p>1962 年 10 月に当時の日本規格協会ビルのメンテナンス及び付帯設備の営繕を目的に、スタンダード・メンテナンス株式会社として設立、以降、標準化及び管理技術の普及に関わる当協会の活動全般に対する各種支援業務に範囲を拡げてきた。その後、社名を業務内容に合わせ株式会社スタンダード・ワークスに変更し、当協会の商品在庫管理のためにデリバリーセンターを設置（埼玉県朝霞市）、また JIS 規格票の無在庫販売に対応した POD（プリントオンデマンド）設備の配備など、これまで当協会の円滑な事業運営に大きく貢献している。</p> <p>今後も当協会の事業運営にあたり、引き続いての協力が期待される。</p>
株式会社 ディグ	<p>当協会創立後まもなくより半世紀以上にわたり、出版事業における主力商品である JIS、JIS ハンドブック、単行本、「標準化と品質管理」誌などの印刷・製本を担ってきた。この間、当協会の要求する品質・納期を満たし、価格面での協力、信頼における営業活動とともに安定したサービスを提供し続けてきた。</p> <p>同社の永年にわたる数多の実績は、当協会出版事業を支えてきたことの証であり、標準化普及・推進への顕著な功績として認められる。最近では、従来の組版・印刷に止まらず DTP による編集・組版委託、更には電子書籍開発にも対応しており、今後ますますの協力関係の維持・拡大による貢献が期待される。</p>

<p>一般財団法人 日本色彩研究所</p>	<p>永年に亘り、JIS 標準色票、JIS 色名帳、変退色用グレースケール、汚染用グレースケールなど、色に関する JIS 試験用標準試料を作成しており、これらの試料は日本国内のみならず海外でも広く利用されている。標準試料の作成には高い精度が求められるが、同研究所は 80 年以上の歴史を持つ日本で唯一の色彩に関する総合研究機関として安定的に標準試料の作成を継続しており、色に関する各産業界の標準化ならびに品質管理活動に大きく貢献いただいている。</p>
<p>一般社団法人 日本自動認識システム協会</p>	<p>バーコード、QR コード、微小な無線チップにより人やモノを識別管理する仕組みである RFID 等に代表される自動認識技術は、生産分野や物流分野、サービス・公共分野及び医療・福祉分野などにも広がりを見せ、今や現代社会のインフラとして浸透しており、必要不可欠な技術として発展が期待される。</p> <p>日本自動認識システム協会は、日用品・家電製品等、消費者が必要とする情報がいつでもどこでも引き出せるよう、セキュリティ機能向上のため様々な活用技術の標準化活動に取り組んでおり、自動認識技術の標準化活動のみならず、自動認識業界の技術者の育成と発展のため、精力的な普及啓発活動に貢献いただいている。</p>
<p>株式会社 八木</p>	<p>JIS L0803 に準拠した染色堅ろう度試験用添付白布のうち、多織交織布を製作・供給している。多織交織布は染色堅牢度試験用添付白布の中でも製作が難しいが、同社は高い技術力とノウハウに基づき永年に亘って JIS に適合した当該試料の供給を継続しており、繊維製品の品質試験において非常に重要な役割を担っている。当該試料は日本国内のみならず海外でも広く利用されており、繊維産業の標準化ならびに品質管理活動に大きく貢献いただいている。</p>